

伝え合う力を育てる学習の工夫

—調べた事を書く活動を通して—



浦添市立港川小学校 久高 聡子

目次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	2
III	研究仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
IV	研究構想図	3
V	研究の内容	2
1	伝え合う力について	2
2	伝え合う力を育てるための書く指導の工夫	4
3	伝え合う力を育てる単元作りについて	5
4	評価の方法と工夫	6
VI	研究の実際	8
1	単元名	8
2	学習材	8
3	単元目標	8
4	単元について	8
5	単元構想図	9
6	単元指導計画	10
7	本時の学習	13
VII	研究の考察	15
1	作業仮説の検証	15
2	研究の成果	18
3	今後の課題	19
	おわりに	19
	主な引用・参考文献	19

伝え合う力を育てる学習の工夫

—調べた事を書く活動を通して—

浦添市立港川小学校 久高聡子

[要約]

本研究では、自分の考えを適切に表現するとともに、自分とは違う立場や考えも尊重できる児童の育成をめざし、調べた事を書く活動を通して、伝え合う力を育てる学習の展開を試みた。様々な人とのかかわりの中で、表現することの楽しさや達成感を味わうことによって、相手意識や目的意識を持って表現しようと言う意欲の高まりが見られた。

《キーワード》 □伝え合う力 □表現力 □相手意識 □目的意識

1 テーマ設定の理由

国際化、情報化、科学技術の発展など我が国の社会は、様々な面で日々大きく変化し続けている。これらの変化を踏まえた、新しい時代の教育の在り方として、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成や個性を生かす教育の推進が提言されている。国語科の目標では、「表現する能力」の育成が最初に位置づけられ、自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する能力や態度を重視している。また、「適切に表現する能力」と「正確に理解する能力」の育成を基盤に、互いの立場や考えを尊重しながら言語で「伝え合う力」の育成も重視している。

その「生きる力」や「伝え合う力」を高める上で大切な役割を果たすものの一つに文章表現力がある。文字を使って表現することにより、自分の周りのことをより深く見つめる力や考える力を培うことができるからである。又、文章によって表現された思いや考えは、時間や場を超えて伝えることが可能である。書いた文章を推敲することによって、相手や目的に応じてより良く伝えようとする力を高めることもできる。更に、文章に表された児童の内面を手がかりにして、一人一人の思いや願いを理解し、個々の可能性や良さを生かすこともできる。そこで、本研究では、文章による表現力の育成に重点をおいて伝え合う力を培っていききたい。

これまでの実践を振り返ってみると、文章を書くことを面倒くさがる子が多く、書くことに積極的に取り組む姿勢はあまり見られなかった。書く材料がなかなか見つけられず、書き始めるまでに多くの時間を要する子もいた。又、自力で書くことはできても、読み返してより良く表現しようとする意欲や態度はあまり見られなかった。自分の考えを伝えることについても、積極的に取り組む子とそうでない子がおり、全体として、相手を意識し、工夫して伝えるまでには至っていない。それは、相手意識や目的意識を持たせる指導が十分でなかったことが大きな原因と考える。又、書く力を育む指導が具体的、継続的でなかったこともその要因の一つであろう。

そこで、本研究では、自ら課題を持って取材をするなどの能動的な関わりをもたせることによって、児童が書く材料の集め方を知り、進んで書くことに取り組めるような学習方法の工夫をしていきたい。そして、書く相手や目的を明確にすることで、適切に表現しようという態度や能力を育てていきたい。又、短作文指導も取り入れ、継続的に書く力を養っていききたい。更に、書いたことを実際に生かす機会も設定し、成就感や達成感を味わわせることにより、次の書く意欲、より良く伝えようとする意欲につなげていきたい。

II 研究の目標

相手や目的に応じて適切に表現したり、表現された内容を正確に理解したりする力や態度を育成するために、調べた事を書く活動を通して、伝え合う力を育てる学習の手立てを研究する。

III 研究仮説

1 基本仮説

児童の興味・関心にそった活動を行わせ、そこで得た情報を発信させることにより、児童は意欲を持って主体的に伝えることを見つけるようになり、目的意識を持たせることで、伝え合う力も育つであろう。

2 作業仮説

- (1) 一人一人の興味・関心にそった取材活動を行わせることによって、進んで書くことに取り組み、積極的に伝えようとするようになるであろう。
- (2) わかったことや考えたことを継続的に文章にまとめたり、まとめたものを読み返したりする場を設定することにより、書くことに慣れ、工夫して表現する力もつくであろう。
- (3) 学び合う場や伝え合う場を工夫することにより、お互いの良さを認め合い、相手や目的を意識してより良く伝えようとするようになるであろう。

IV 研究構想図

(次ページに記載)

V 研究の内容

1 伝え合う力について

(1) 伝え合う力とは

伝え合う力とは「人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力」と学習指導要領にある。

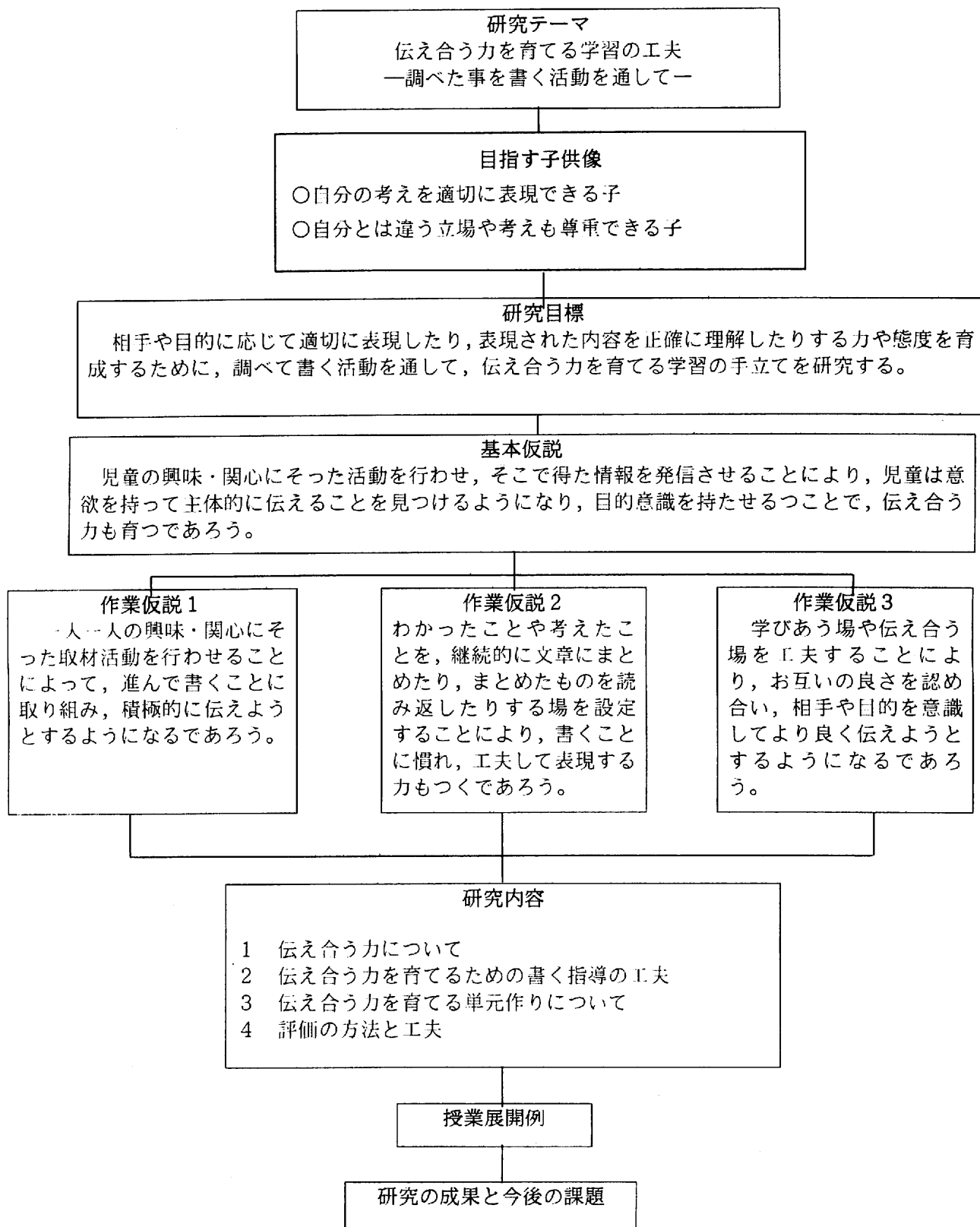
つまり、自分の考えを積極的に、そして工夫して相手に伝えようとする態度や能力、それと合わせて相手の立場や考えも理解しようという寛容的な態度や相手の言いたいことを正確に理解する能力をつけることが「伝え合う力」を高めることにつながると解釈する。その伝え合う能力は、話す、聞く、書く、読むという活動すべてにおいて培われるものであるが、その中でも書くことの果たす役割は大きいと考える。話す内容を事前に文章にまとめることによって、筋道を立てて話す力を高めることができ、聞きながらメモをとることによって正確に聞く力を高めることもできるからである。読んだことを文章にまとめることにより、目的に応じて読む力を培うこともできる。

又、情報化時代において、この「伝え合う力」は、情報を発見・収集し、相手や目的に応じて選択・再構成し、主体的に発信・交流するという「情報活用能力」と言い換えることもできるであろう。そして、これは、生きて働く国語の力であり、人間形成につながる大切な力である。したがって、国語科の学習の中だけでなく、それ以外のあらゆる機会をとらえて身につけさせていく必要があると考える。

(2) 伝え合う力を育てる指導の工夫

伝え合う力を育むために大切なことは、第一に「伝えたい」という子供の思いを大切にすることである。身近に伝えたい事柄があれば、意欲的に表現しようとするし、工夫して表現しようとするであろう。しかし、伝えたいことがすべての子にすぐ見つかるとは限らない。そこで、児童の興味・関心をひきだす

IV 研究構想図



工夫を行うとともに、児童が自ら選んだ事柄について能動的に調べるといった活動を取り入れることによって、どの子も伝えることを見つけやすくなると考える。

次に大切なことは、伝えるための適切な表現技能を持っているということであろう。伝え合うためには、要点をおさえて話したり聞いたりする力、中心や段落構成を押さえて話したり聞いたりする力が必要である。それらの力を培うためには、書くことと関連を図りながら、意欲や目標を持たせて計画的・継続的に学習させる必要がある。そのためには、短作文指導が有効だと考える。

それから、伝え合う場の工夫も大切であろう。伝え合うことの良さを味わうことができるような場を設定することができれば、児童は相手や目的を意識して表現活動に取り組み、工夫して表現しようとするようになるであろう。そこで、最初は、児童が安心感を持って接することのできるような身近な人々への伝える場を設定したい。身近な人だと励ましやアドバイスなどの評価も直接得られ、伝えることへの自信をもちやすいと考えられるからである。その後、担任以外の教師や異学年の子ども達、そして、校外へと伝える場を発展させていくことで、相手や目的に応じて適切に伝える力を培えると考えられる。

2 伝え合う力を育てるための書く指導の工夫

(1) 書く力を育てることの意義

文字や文章を書く活動は、国語科以外の各教科でも行われており、学習の基礎・基本と言える。書くことによって、あるいは、その書いたものを使って自らの考えを伝えたり、他の人の考えを理解したりしながら学習に参加していくことも多い。

学習するときだけではなく、書くことは日常生活でも行われており、記録したり、説明したり、励ましたり、楽しませたりと、さまざまな形で生活の中に役立っている。これもまた、人とのかかわりの中で使われることが多い。

書いて伝えることにより、情報を受ける立場だけではなく、情報の送り手として積極的に表現活動に参加することができ、時間や場を越えて個性を生かすことが可能となる。

書くことへの興味・関心を持たせることや書く力をつけることは、日々の生活を充実させ、人とのかかわりの中で成長していくきっかけを作ることにつながると考える。

(2) 短作文を取り入れた書く力を育てる指導の実践

書く力というのは、簡単に身に付くものではない。しかし、書かなければその力は身についていかない。文章を書く活動を重ねること、継続的に行うことによって身に付き、伸びていく力だと考える。だが、ただ単に書く回数を増やせばよいというものでもない。無理や無駄のないような、計画的な指導を行うことにより、書くことになじみを深めさせることが可能となる。

書く活動を行う上で、子ども達が一番抵抗を感じているのが書く量である。そこで、子ども達の負担にならない少ない字数、負担にならない短い時間で書き終えることのできる短作文の指導が有効だと考える。

そのために、作文ノートを作成するなど、継続的に文を書く機会を作る必要がある。しかし、繰り返し学習は、受動的でマンネリに陥りやすい。そこで、題材例は、児童が自己決定できるような幅のあるものとし、教室にポストを設置するなどして、子ども達の書きたい話題を適時取り入れるような工夫も大切になるであろう。書くことに苦手意識のある子には、書き出しの文や書き終わりの文例を示すなどして、書き始めの抵抗を減らす工夫も必要と考える。

3 伝え合う力を育てる単元作りについて

技能は、相手や目的などの場に応じて適切に使う経験を重ねることによって、生活の中で生きて働くことになり、伸ばすこともできる。文集を作る、発表会を行うなどという目的があると、子供たちは、そのために必要な情報をインタビューやアンケートなどの調査を行ったり、インターネットで調べたりして収集する。そして、その集めてきた資料などから、必要な情報を書き写したり、書き換えたりしながら自分なりに再構成を行う。さらに、書いたものを読み返す、発表用の原稿を作って練習をするという活動も行うだろう。その活動の中で、子ども達は目的を持って聞いたり、話したり、書いたり、読んだりすることになり、話す力、聞く力、書く力、読む力を相互に関連させて伸ばし、伝え合う力を高めていく。ゆえに、情報を収集する能力、選択し、再構成する能力、発信する能力などを育成することで、子ども達の理解力や表現力を伸ばし、伝え合う力を育むことになるという視点から「調べてまとめること」に焦点を当てた単元の年間計画の作成を試みた。(P7に記載)

(1) 情報収集能力を育てる

情報収集は、目的意識を持って行わせなければならない。また、収集の手段が多様にあるので、それぞれにあった指導と支援が必要である。

① インタビュー

新学期に学級開きと合わせて質問ゲームを行う。互いに質問をし合うことで友達と仲良くなりながら、インタビューの仕方に慣れさせる。その後、家族へインタビューをする機会を作り、インタビューメモの活用方法などを理解させる。

さらに、家族以外の人へとインタビューの場を広げ、相手の都合や礼儀についても考えさせるようにする。

② パソコンの活用

割り当てられたパソコン室の利用時間を計画的に活用し、インターネットで必要な情報を得る方法を知らせる。

③ 新聞記事やパンフレット等の活用

新聞記事やパンフレットを学習材として活用し、掲示することで、情報を集める上でこれらが大切な役割を果たすものになることを知らせる。

④ 図書資料の活用

図書館司書とも連携をとりながら、参考になりそうな図書の紹介を行うとともに、学級文庫として教室に並べ、情報収集しやすい環境作りをする。

(2) 選択・再構成する力を育てる

どのように書けばよいのかが具体的に見えるようにし、児童の書くことに対する不安感を取り除くようにすることが大切になる。

① ワークシートの工夫

インタビューメモを作成し、聞きたいことをあらかじめ考えてから取材させるようにする。そして、文章にする時には記録したメモの内容を取捨選択し、整理して書くようにさせる。取材用のワークシートにまとめ方について書く欄も作っておくと、見通しをもって書く内容の選択ができるであろう。また、発表原稿用のワークシートには、ヒントになるような言葉も書き入れ、段落を構成する際の参考にさせる。

② 自己の活動を振り返る機会を作る

書いた後は、伝えたいことが効果的に書けているか、正しく伝わるように書けているか見直す学習

も重要である。書き終えたら、相手や目的を意識して、自己評価をさせるようにする。その時、書いた文を、小さく声に出して読み返させたり、教師の前で読ませたりすることが有効である。

しかし、本人はその文章の内容が読む前からわかっているのに、誤りやわかりにくさを見落としてしまいがちである。そこで、他の人にも協力してもらい、隣同士で、グループで、などと変化を付けて見直す機会を重ね、選択の視点や再構成の幅を広げるようにする。グループの編成も、普段一緒に活動することの多い生活グループから、活動の内容や能力を考えて意図的に編成するグループへと段階をおって工夫する。

(3) 発信する能力を育てる

友達同士の交流を大切にし、お互いの良さを学びあえるようにする。また、活動の様子をビデオに撮って見直すことにより、自己評価できるようにする。

子ども達の成長にとっては、多くの人との温かい関わりが大切であるので、伝えた相手から感想をもらい、それをもとに次の活動について話し合う時間を作る。

4 評価の方法と工夫

評価は、児童の意欲が高まるような評価を心がけたい。表現力を伸ばす学習には終わりが無いので、児童のその時点での成果を肯定的に受けとめ、良い文章にしようという学習意欲を育てることに重点をおくようにする。そして、その評価を次の指導に生かすようにする。

(1) 評語

書いたものを誰かが読み、それについて何らかの感想を伝えることによって、書く意欲は高まっていくだろう。目を通したことを伝えるためにも、児童の書いたものに評語をそえることは大切である。その時には、児童の良い点や進歩の状況を積極的に評価し、一人一人に心じた励ましを行うことを心がけたい。しかし、なぜほめられたのかがわからないような評語では、児童の表現力を高めることはできない。表現の良い所が具体的にわかるようにし、満足感と次の活動への意欲を持たせることが大切である。

(2) 自己評価

目的を意識し、それに照らして評価をし、修正する経験を重ねる中で、目的に応じて書く力は伸びていく。そこで、書く前に目当てを立て、書いた後その目当てにそって自己評価しながら自分の学習を振り返る機会を作ることが必要になる。その後、修正が必要な部分について自ら考え、推敲していき、できれば、自己解決の喜びを実感することができ、自信もついて、次の書く意欲へとつながっていくだろう。

(3) 相互評価

自己評価だけでは、書く力を伸ばすには限界がある。児童は、周りの友達との交流により、成長するきっかけを得ることも多い。そこで、相互評価を取り入れることで、評価の視点を広げたり、友達の優れた表現を学んだりする機会を作ることが必要になる。

しかし、他人からの評価の度合いによって、自分の作品への満足度はかなり左右されるので、相互評価させる際には、友達の良さに着目させるようにし、単なる間違い探しにならないように配慮したい。そのためには、書いた人の伝えたいことを理解しようという気持ちで読ませるようにし、理解を深める助けとなるように、対話を生み出せるような相互評価の場作りが有効であろう。

(4) その他

賞賛の機会が多いほど、子ども達は書く事への意欲を強めるだろう。機会をとらえ、保護者にも児童の学習の様子を知らせるなどして連携をとり、一人一人が伝えることの喜びを味わえるようにすることも大切である。

「調べてまとめる力」を育てる年間計画（書くことに関する指導 8 5 時間のうち、「自分の疑問に思った事などについて調べてまとめること」の計画）

単元名	ねらい	培う力	主な学習活動と表現方法	時数	学習材	他教科との関連
○放送記者 になっ て伝 えよう	・伝えたいこ とを見つけ、身 近な人へ進ん で伝えよう と いう気持 ちを 持たせる	・ 事柄の収集・選択 ・ 初め、中、終わ り ・ 段落の続き方	・ 隣の人と質問 ジャンケンを行 う ・ 見つけた友達 の良さを作文に 書く ・ 書いたものを 回覧文集にして 保護者に 見ってもらう	3	・ 友達紹介の文 集作り	・ 学活 「学級開き」
・ 環境問題 について		・ メモの活用 ・ 初め、中、終 わり ・ 考えを明確に する ・ 段落の続き方	・ 身近な環境問 題について考 える ・ 自分たちに できる工夫に ついて調べる ・ 調べた事を 発表原稿に書 き表す ・ 書いた原稿 を授業参観を 利用して保 護者に 聞いてもら う	5	・ 発表原稿作り	・ 社会 「住みよ いまち づくり」
○名人にな って紹 介し よう	・ 伝えるため のいろ いろな 方法 を知り、書 いた もの を見 直す 習 慣を 身 に 付 け さ せ る	・ メモの活用 ・ 初め、中、終 わり ・ 中心を明確に する ・ 段落の続き方 ・ 手紙文の書 き方	・ ゲストティー チャーの話を 聞く ・ 教科書教材 を参考に、昔 のことにつ いて 調べて書 く ・ 祖父母へ招 待状を書く ・ 祖父母を招 いて発表会 を開く ・ お礼の手紙 を書く	10	・ 町に大きな かばが来た （教科書教 材） ・ 方言につ いて調べて （教科書教 材） ・ 発表原稿 作り	
・ 遊びにつ いて		・ メモの活用 ・ 事柄の収集・ 選択 ・ 順序や軽 重 ・ 表現方法 の工夫	・ 遊び方を説 明するメモ を作る ・ 絵や道具を 使うなど、 説明の仕 方を工夫 する ・ 招待状を書 く ・ 幼稚園生と 交流を持 ち、遊び 方を説明 して一 緒に遊 ぶ	5	・ 遊び方を 紹介しよ う （教科書 教材）	
○体の不 思議な 新聞に 表そう	・ 相手に伝 わるよ うに、工 夫 して書 けるよ うにす る	・ 簡潔に ・ 表現方法 の工夫	・ ゲストティー チャーを招 き、新聞 の作り 方を教 えてもら う ・ 人の体 について 調べた 事を新 聞に書 き表 す	5	・ 新聞作り	・ 学活 「エイ ズにつ いて」

VI 研究の実際

1 単元名

名人になって紹介しよう

2 学習材

○方言について調べて（教科書教材）

○相手や場を考えて（教科書教材）

○ニュース番組のビデオ

3 単元目標

調べてわかったことが相手に伝わるように、工夫して書いたり発表したりすることができるようにする。

4 単元について

(1) 学習材について

情報化社会を主体的に生きるには、必要な情報を収集・選択し、それを理解して相手や目的に応じて再構成して伝える力を培うことが大切である。教科書教材「方言について調べて」では、方言と共通語の定義づけを行った後に、方言について調べる様々な方法と依頼文の例が示されている。教材文を読むことで、子ども達は具体的なイメージを持って調べ学習に取り組めるであろう。

また、教材「相手や場を考えて」には、放送記者の挿し絵が載っている。記者のポケットに入った取材メモや手に持ったボードなどから、相手にわかりやすく伝えるためには、発表する前に文字にまとめておく必要があることにも気づき、目的をもって書くことに取り組めると考える。

ニュース番組のビデオを視聴することによって、発表するときの様子を想定することができ、書く内容の検討もしやすくなるであろう。相手にわかりやすく伝える話し方の基本も、身に付きやすいであろう。

(2) 児童観

4年生の子ども達は、好奇心が旺盛で、いろいろなことに興味を持って積極的に行動する。そのため、行動範囲も広がり、地域社会へ接触する機会も増えてくる。この時期に、地域の人々と積極的に関わるような取材活動を行わせることは、社会性を育てる上でとても大切だと考える。

実態調査の結果、自分たちで活動の計画を立てたり、実際に活動したりする学習を楽しんでいる子が多かった。しかし、調べたことをまとめる学習に関しては、楽しいと答える子が減っている。中心や段落を意識してまとめることは苦手で、その力も充分育っているとはいえない。「書くことが面倒」という子もあり、六人の子が書くことに強い抵抗を示している。しかし、作文を書くことで「気持ちはずっきりする」と答えた子もいる。

(3) 指導観

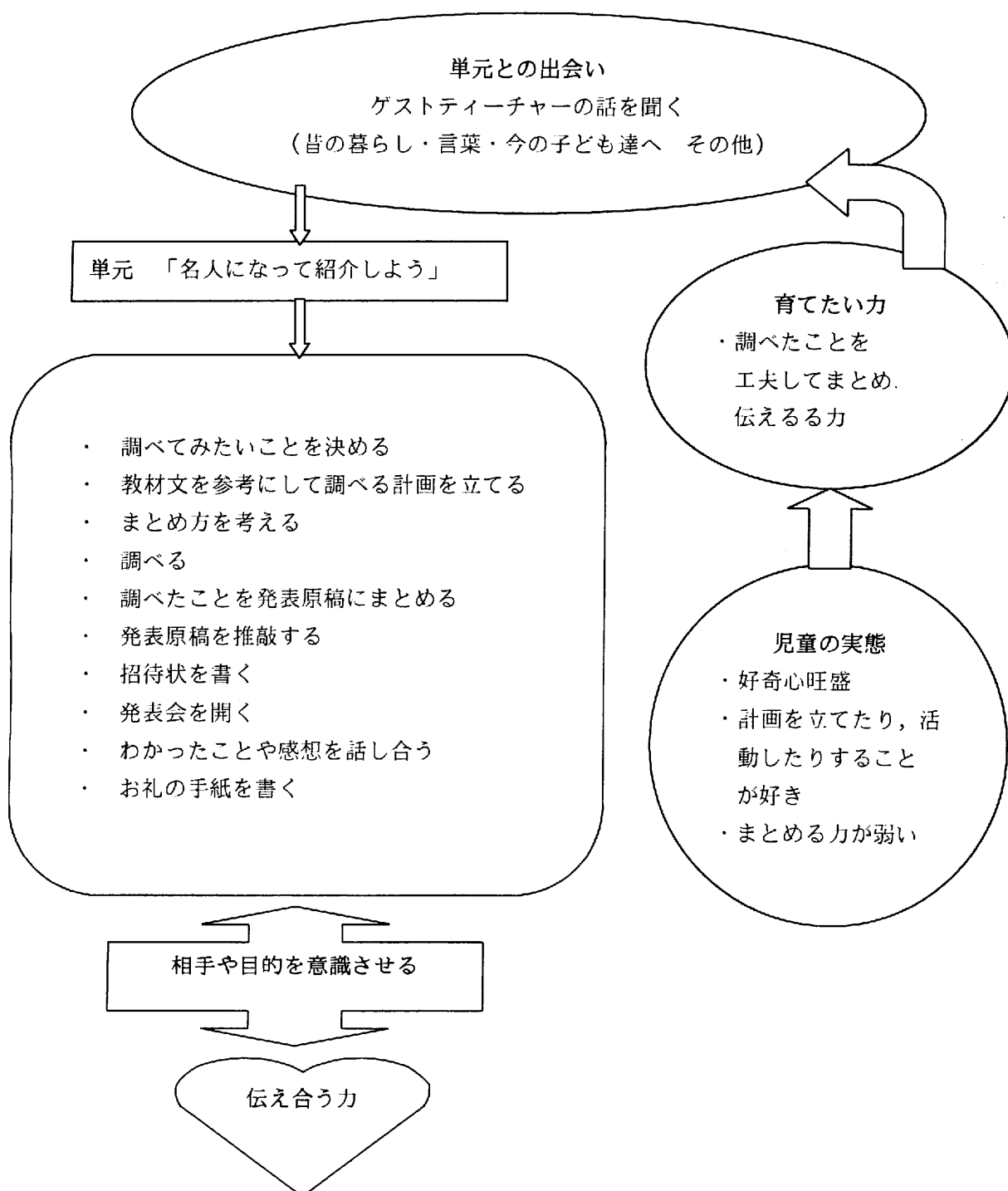
社会体験の不足や人間関係の希薄化が問題視されている現代、人とのかかわりを大切にし、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりする活動を大事にしたい。そこで、警備員として校内で働いている砂川さんをゲストティーチャーとして招き、昔の話を聞くことでこれからの学習への興味・関心を持たせるとともに、自分が調べることについて具体的に考えて選択するきっかけを作りたい。また、自分たちが調べたことを聞いてもらうことにより、調べることや書くことへの意欲付けを行い、相手や目的を意識させ、伝える力を育てていきたい。取材活動においても、身近な人や地域の人々と積極的に関われるような支援を行い、丁寧語や敬語などといった言葉遣いの指導も合わせて行っていきたい。昔のことについて調べる中で、今の自分たちの生活を振り返って考えるきっかけも作りたい。

調べてわかったことをまとめた後、それを見直す場を設定することにより、お互いの良さを学び合い、

相手や目的を意識してより良く伝えようという意欲を高めさせたい。

発表の段階では、伝え合うことの楽しさを体験させ、積極的に自分の考えを表現しようという意欲と態度を培いたい。発表する時間に制約を設けることで、調べたことをそのまま書き写すのではなく、相手や目的に応じて内容を精選・再構成する力も培いたい。自分の考えを伝え、相手の考えを聞くことによって、豊かな人間関係を築くことにもつながることを期待する。

5 単元構想図

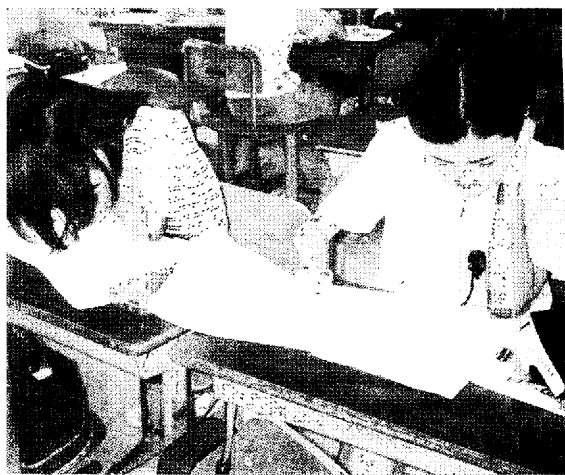
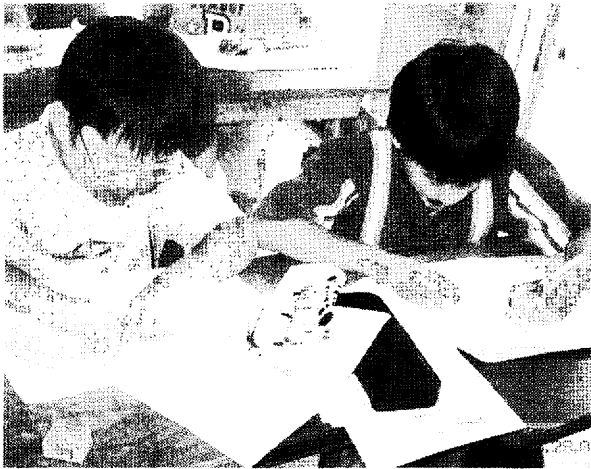
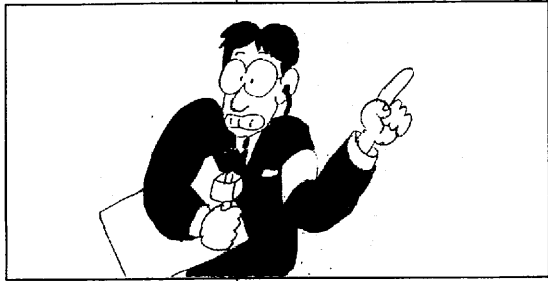


6 単元指導計画

時数	学習活動	留意点と支援	児童の声	作業仮説の検証
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 砂川源光さん（ゲストティーチャー）の話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の暮らし ・ 昔の言葉 ・ 今の子供たちに言いたいこと など ○ 砂川さんの話を聞いてわかったことやこれから調べてみたいことを考える。 ○ 調べてわかったことや考えたことを砂川さんや自分の祖父母に伝える会を持つことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味を持ってこれからの学習に取り組めるように意欲付けを行う。 ○ 昔と今の違うところや昔の良さ、もっと調べてみたいことについて考えながら聞くようにさせる。 ○ 今回の発表会の目的や伝える相手を理解させる。 	<p>「昔の言葉には良い言葉がいっぱいあるのでそれを調べてみたい」 「昔の言葉を覚えて会話してみたい」 「昔の遊びや服装についても調べてみたい」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="text-align: center;">3. これから調べてみようと思ったことは？</p> <p>また「またわたしにはわからぬ言葉やことわざ」があるのてこんどはそんなことに気をつけて調べてようと思いました。</p> </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔のことについて調べる方法について話し合う。 ○ 教材文「方言について調べて」を読み、他の調べ方について知る。 ○ それぞれの方法の良さと気をつけることについて考える。 ○ 自分が調べたいことをどのような方法で調べたらよいか計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝える相手や目的を考えながら話し合わせる。 ○ インタビューする時は、丁寧な言葉を使うことや相手の都合を聞くこと、メモをとりながら聞くこと等をおさえる。 ○ 本やインターネットで調べたことは、そのまま書き写すのではなく、わかりやすい言葉に書き直したほうが良いことをおさえる。 ○ 調べることにあった方法を考えさせる。前回とは違った方法にも挑戦するように促す。 	<p>「明日おばあちゃんの家に行くからその時に聞いてみる」 「パソコン教室に行ったときに調べてみる」 「〇〇さんと一緒に図書館で調べてみる」</p>	



<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べた事を伝えるときに気をつけることを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文「相手や場を考えて」を読んで ・ 教材文の挿絵を見て ・ ニュース番組のビデオを見て ○ まとめ方の工夫について話し合う。 ○ 自分の調べることに合ったまとめ方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞く人によくわかってもらうにはどうしたら良いかという視点から考えさせる。 ○ 前回の発表会を想起させ、友達の工夫に気づかせるようにする。 	<p>「おじいさんやおばあさんに聞かせるのだから前よりももっと大きな声で発表したほうがいい」 「アナウンサーは、原稿を机の上に置いて、前を見ながら話していた」 「すらすら読めるようにたくさん練習しなければ」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">作業仮説1の検証</div>
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書く目的に合った方法で調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いつ、どこへ、何を取材しに行くのかを決めて、計画を立てる。 ○ 同じ取材内容の人とグループを作り、協力し合えるようにする。 	<p>「いろいろな事がわかっておもしろかった」</p>	
<p>5 ・ 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べてわかったことや思ったこと、考えたことなどを発表原稿に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べてきた事柄を整理し、順序や軽重を考え、中心をはっきりさせて書くようにさせる。 	<p>「いつもより早く書くことができた」</p>	



7 本時の学習 (7 / 10)

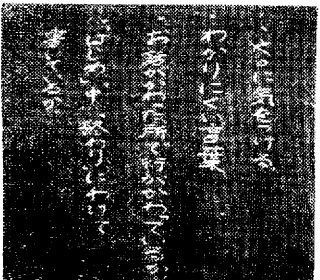
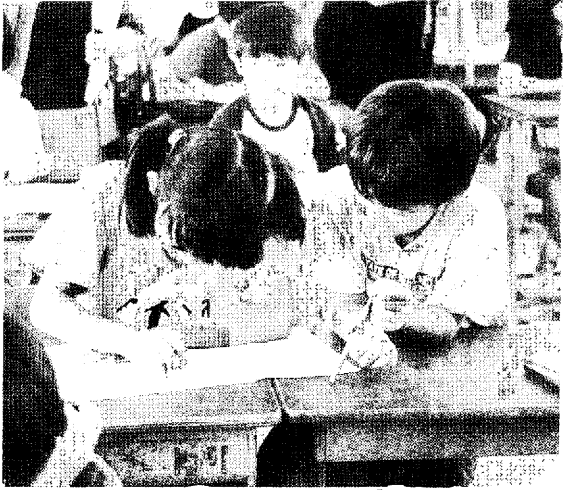
(1) 目標

- ① 自分の文章を読み直し、わかりやすい文に書き直すことができるようにする。
- ② 友達の発表原稿を読み、書き方の工夫を学ぶことができるようにする。

(2) 授業仮説

- ① 書いたものを、具体的な視点を与えて読み返す場を設定すれば、相手や目的を意識してより良く伝えようとするようになるであろう。
- ② 友達の作文を読み合う場を設定すれば、学習したことを生かそうとする意欲や態度が育つであろう。

(3) 本時の展開

	学習活動	教師の支援	評価の観点
導入	<p>1. 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>調べてわかったことが相手に伝わるように発表原稿の検討をしよう</p> </div> <p>2. どんなことに気をつけて読み返せばよいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「中」「終わり」にわかれているか。 ・わかったことが詳しく書けているか。 ・聞く人にわかりやすい言葉を使っているか その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の発表会を想起させる。 ・話し合ったことの中から自分が今日特に気をつけて検討したいことを選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認することができたか。 ・作文を読み返すときの視点がわかったか。 
展開	<p>3. 友達と交代して原稿を読み合い、互いにアドバイスし合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が決めた視点にそってアドバイスするようにさせる。 ・良い所ともう少し工夫した方が良い所を見つけるようにさせる。 ・アドバイスする所が見つけられない子には、ヒントカードを配る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み返す視点に沿って推敲しようとしているか。 ・相手にわかるような言葉でアドバイスしているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① 意味がはきりしない言葉はありませんか。 ② わかたことばくわく書けていますか。 ③ 「初め」「中」「終わり」にわかれていますか。 ④ 調べたことを詳しく書けていますか。 ⑤ 聞いてわかるように書けていますか。 ⑥ 伝えたいことがわかりますか。 ⑦ 同じ言葉のくりかえしはありませんか。 ⑧ 「と」「は」「し」「し」「を」のつかいかたは正しいですか。 ⑨ 体言がつかわれていますか。 ⑩ 伝える人のことを書けていますか。 ⑪ 書きかきかきして、いるところはありませんか。</p> </div>

VII 研究の考察

1 作業仮説の検証

(1) 作業仮説1について

一人一人の興味・関心にそった取材活動を行わせることによって、進んで書くことに取り組み、積極的に伝えようとするようになるであろう。

ゲストティーチャーから昔の話を聞いたことにより、学習への興味・関心の高まりが見られ、その後、調べる計画を立てる時間を作ったことにより、相手や目的を意識し、進んで書く材料を探することができるようになった。前回、9名の子が、一人では書く事柄を探せず、教師の支援を必要としていたが、本単元では全員が自分で書く材料を見つけることができた。

調べ学習の充実により、書くことへの取りかかりも早くなり、全員が決められた時間内に書き終えることができた。37名中24名の子が書くことが「楽しかった」と答え、「楽しくなかった」という子は一人もいなかった。

書き終えた後、「たくさんのことを調べたから、書くのがうまくなった」と満足感を表した子もいた。それにより、伝えたいという意欲も高まったようで、学年当初、書くことに強い抵抗を示していた子が「招待状を書こう」という提案もしてきた。

取材活動を行うことにより、いろいろな発見があったことも楽しかったようで、「またやりたい」という声も多く聞かれた。

石少川さん

お元気ですか？前は昔のお話をして下さり、どうもありがとうございます。

7月7日に、港川小学校の二階の図書室で、方言の作文やかみしばいの発表があります。

ようじがありませんでしたら、図書室に方言の発表会を見にきて下さい。

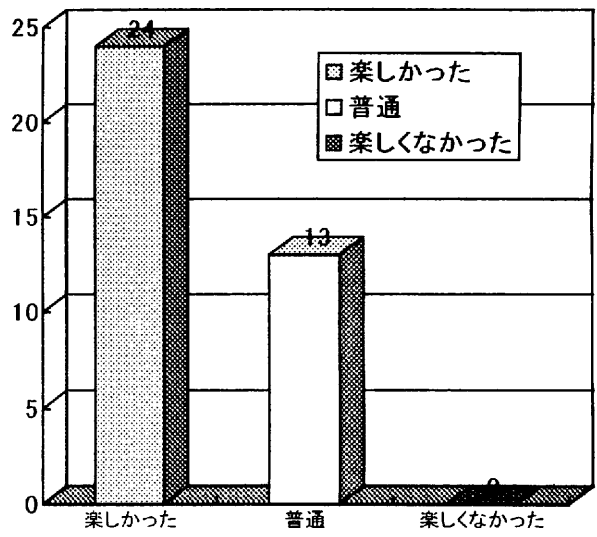
17時10分～17時55分までです。

7月2日

赤嶺 さとり

石少川けんこう様

調べて書く学習をして



私は、書く勉強は嫌いだけど、調べたりしたら楽しくなってきた。ほかにももっと調べてみたい。

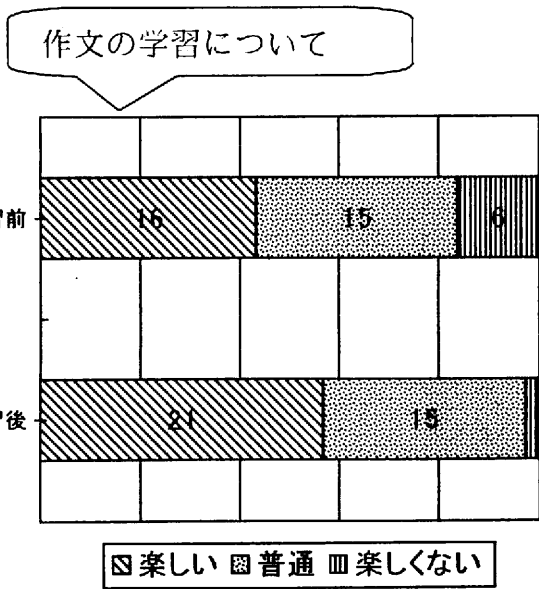
私は、もともと書くのは好きだけど、これでもっと好きになりました。

(2) 作業仮説2について

わかったことや考えたことを継続的に文章にまとめたり、まとめたものを読み返したりする場を設定することにより、書くことに慣れ、工夫して表現する力もつくであろう。

作文ノートを作り、週一回、朝の学習の時間を使って短作文を書かせた。子どもたちにとって、作文は長く書くものという意識があるようで、そのことに対する抵抗がとても大きいようだ。書く前から「どこまで書けばいい?」とすぐ尋ねてくる。朝の15分間という短い時間なので、ノート1~2ページ(120~240文字)程度という少ない字数で書かせたところ、書くことへの抵抗を示す子が減り、書くことを楽しむ子が増えてきた。自らの成長の跡が感じられたことも書く意欲につながったようで、学習前のアンケートで「書くことは嫌い」と答えていた子が、作文用紙に書くのはいやだけど作文ノートに書くのは「好き」と話しかけてきた。短作文学習後は、21名の子が作文にまとめる学習を楽しいと答え、楽しくなかったという子は一人だけであった。

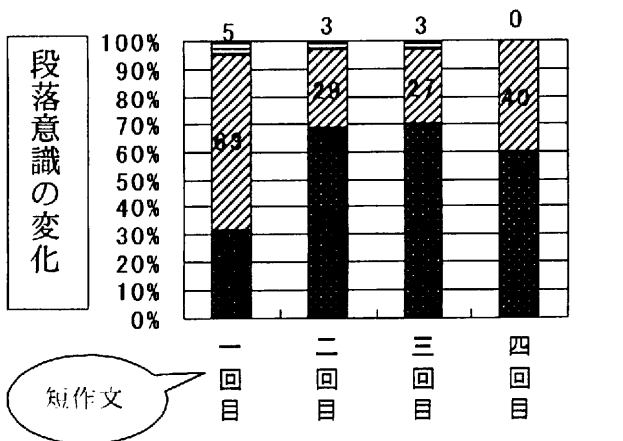
毎回「はじめ」「中」「終わり」を意識させ、各部分の書き出し文の例を示したことにより、書き始めの抵抗が薄らぐと同時に、段落を意識して書く姿が見られるようになった。短作文の回数を重ねるうちに、教師の示した例ではなく自分なりに表現を工夫して書き始める子も見られるようになった。



児童の感想

たんだん上手になつたのうれしかった。
 いろんな物についてかいてみたい。
 さとこ先生のかんやがうれしかった。
 作文を書くのが好きになつたあ!!

さとこ先生へ
 さとこ先生、これから朝や10月から
 よろしくおねがいします。
 やとこ先生、作文の時間さとこ先生と
 やると楽しくなります。
 作文といつては長くないし、楽しく書け
 ます。これからよろしくおねがいします。
 名前(宮岡夏来)

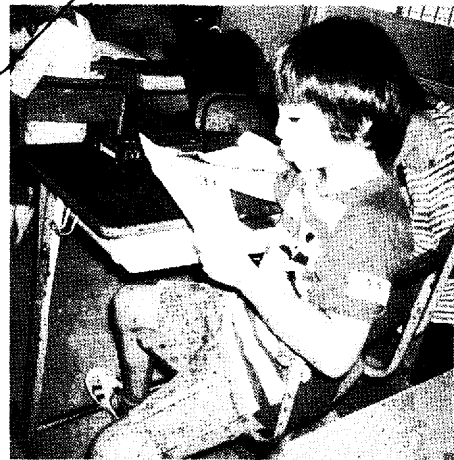
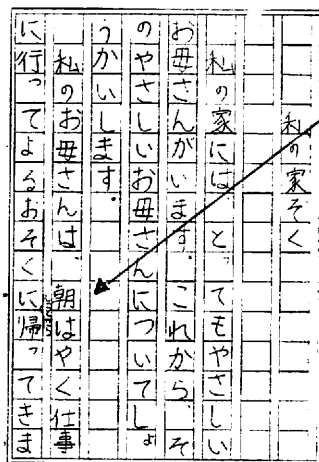


短作文

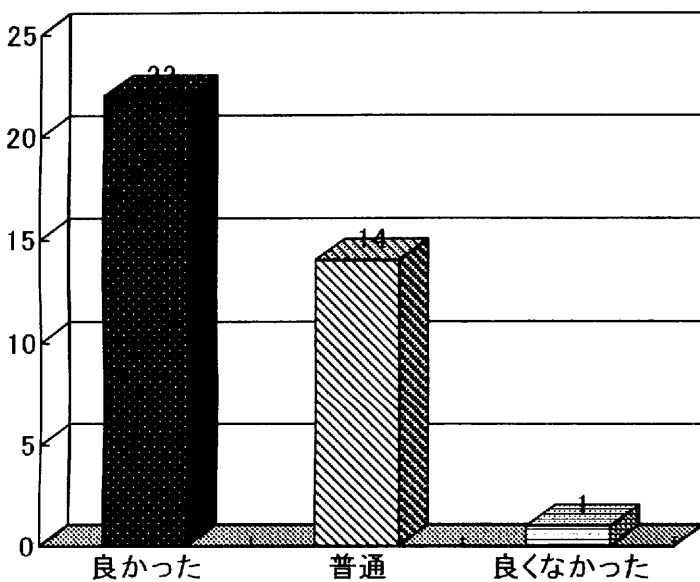
(3) 作業仮説3について

学び合う場や伝え合う場を工夫することにより、お互いの良さを認め合い、相手や目的を意識してより良く伝えようとするようになるであろう。

お互いの書いたものを推敲し合う学び合いの学習では、「自分の作文がわかりやすくなってうれしかった」「友達のを直しながら、作文の書き方がわかってきた」という感想が聞かれた。学習後、自ら友達にアドバイスする姿や迷っている部分を友達に相談しながらよりわかりやすい言葉に直そうとする姿が見られるようになった。自分の書いた文を読み返し、足りない言葉などを付け足すなど、相手や目的を意識して言葉を選んで使おうとする姿も見られた。



友達に読んでもらって



わかりやすかった。

自分の作文のよい所が
わかった。

もっとがんばろうとい
う気持ちになった。

2 研究の成果

- (1) 調べた事をまとめ、伝えるという一連の活動の流れの中に、書くことを取り入れたことで、楽しんで書く子が増え、相手や目的を意識して表現しようとするようになった。
- (2) 対話のある相互評価の場を取り入れたことにより、お互いの良さを認め合い、学習したことを生かしてより良く伝え合おうという姿勢が見られるようになった。
- (3) 伝えた相手から感想をもらったことで、伝えることの楽しさを味わい、進んで伝えようとするとともに、適切に表現しようという意欲が見られるようになった。

3 今後の課題

- (1) 児童の興味・関心や書く力などの分析を細かく行い、一人一人に合った支援の方法を工夫していきたい。
- (2) 自己評価に生かし、表現力を高めることにつながるようなめあての持たせ方を指導する必要がある。
- (3) 伝え合う力を高めるとともに、児童の人間形成につながるような単元作りを工夫していきたい。

おわりに

どの子も書くことを好きになり、気軽に生活の中に書くことを取り入れるなど、書くことを楽しむ子になってほしいという思いが、この研究を始めたきっかけでした。本研究を通して、伝える相手を思い描き、笑顔で文章を書き綴る子供たちの姿が見られました。又、友達と相談しながら一生懸命に言葉を選んで書く姿も見られました。それにより、言葉のおもしろさや大切さを感じるると同時に、書くことで豊かな人間関係を育むことができるということも実感しました。今後も、機会をとらえて実践を深めていきたいと思えます。

最後になりましたが、教科指導員として親身にご指導いただきました神森小学校の与那覇月江先生、浦添市教育委員会の先生方、そして当研究所の大城所長、新川係長、山里主事、他職員の方々に心から感謝申し上げます。

また、六ヶ月という長期にわたる研修の機会を与え、支援して下さいました港川小学校の我那覇校長先生をはじめとする諸先生方にも心より感謝申し上げます。

主な引用文献・参考文献

- | | | |
|-----------------------|--------------------|---------|
| ・卯月啓子・首藤久義（1999） | ことばがひろがるⅠ・Ⅱ | 東洋館出版社 |
| ・工藤順一（1999） | 国語のできる子どもを育てる | 講談社現代新書 |
| ・瀬川榮志監修 大上かず子編著（2000） | 「伝え合う力」を育てる指導細案 | 明治図書 |
| ・国語教育研究所（1996） | 作文技術指導大事典 | 明治図書 |
| ・小森茂編・著（2000） | 新学習指導要領を生かした国語科の授業 | 小学館 |
| ・熊本市教育委員会（1994） | 熊本市の教育 第38集 教育論文集 | |